

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: http://www.konbukuroike.com

2023 年 12 月

第 116 号

主な予定

12 月 24 日 (日)

13:00～ 忘年会

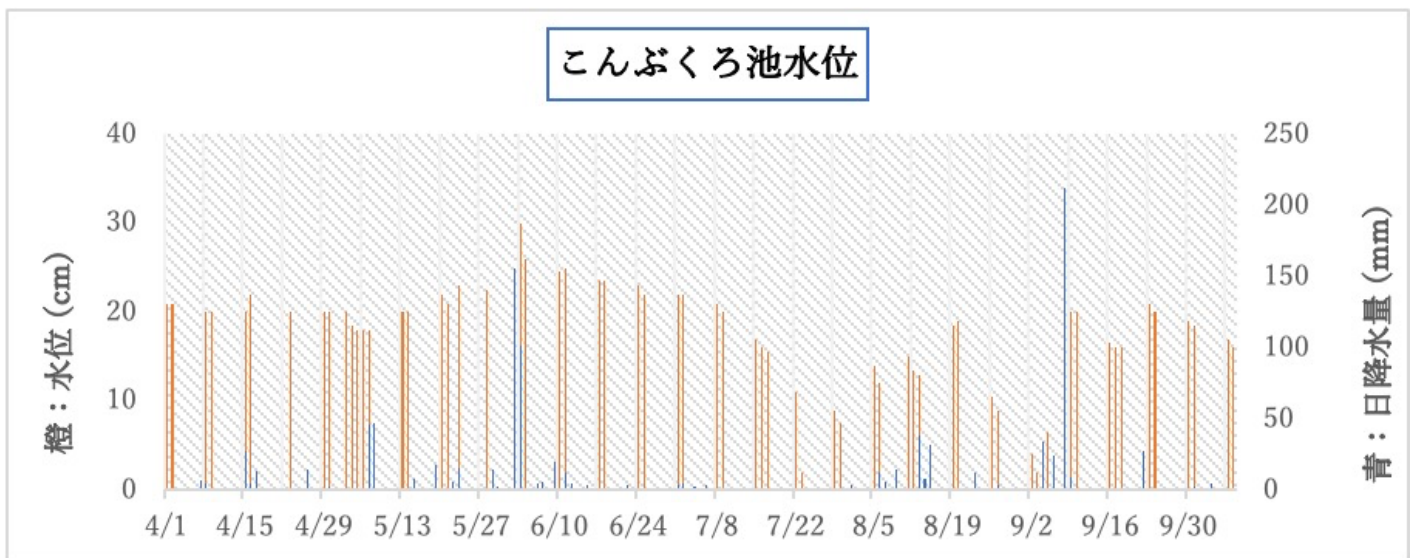
こんぶくろの水環境について

水環境チーム

今年の 4 月から、当番日にこんぶくろ池の水位の定点計測をお願いしていますが、これまでの計測の結果は下図のとおりです。橙色の棒グラフは計測された池の水位（当番日のみ。左目盛）で、青色の棒グラフはアメダス我孫子による日降水量（右目盛）です。この図からは次のことが分かります。

- ① 計測箇所におけるこんぶくろ池の満水水位は 22cm から 23cm で、大雨（日降水量 50mm 以上程度）直後には一時的にそれを超えることもあった。
- ② 池の水位は大雨直後に満水となり、その後、無降水が続くと、時間をかけてゆっくりと低下する。無降水日が長く続いて水位がほぼゼロになることもあった。

以上は私たちが経験的に感じていたことですが、それが数値で裏づけられました。今後、池の注水管理を行っていくうえなどで役に立つデータであると思います。



さて、こんぶくろ池自然博物公園を囲む柏北部中央地区土地区画整理事業の事業期間は、当初 2022 年度末で終了とされていましたが、一昨年末に 6 年間延長が決定されました。同事業計画では公園北側、

東側、南側の道路工事が予定されています。中でも公園北縁に舗装道路を新設し、その地下にφ1650mmの雨水管を埋設（暗渠化）して、北側排水路に流れる水を流す計画があり、公園北部の湿地環境への影響が危惧されます。

大昔から続くこんぶくろの自然環境を守り、次世代につなげていくために、日頃からこんぶくろの自然環境に接している私たちは、この問題についてしっかりと考えなくてはなりません。

以下、こんぶくろの水環境についての現時点での考え方をポイントごとに略記します。ご意見、ご質問などありましたら、お願いします。

1. こんぶくろ池の水量確保と水質改善

こんぶくろ池の池水量については、周辺開発が進んで涵養域が減少していることなどから、自然の湧水量が減少し続けており、北側排水路から取水した水を曝気槽で浄化し、約10ℓ/分（曝気槽の浄化限度）の水量を注水して、池の涸渇を凌いでいます。しかし、曝気槽の浄化能力に限界があることなどから、近年、冬季にアオコが発生するなど、池の水質悪化が顕著となっていて、水質的には今後も排水路の水を利用し続けることのマイナス面が懸念されます。その一方、排水路の壁面からしみ出した水が伏流して池に流入しており、暗渠化によって現在の排水路がなくなると、池の水位がさらに低下する可能性があります。このように水量の確保と水質の改善という二律背反とも言える問題にどう対応していくか、さらに検討を重ねる必要があると考えます。

2. 地金堀の水量確保と水質改善、及び湿地環境の保全

本公園のシンボルである地金堀両岸に広がる湿地環境が、必ずしも北側排水路と直結する地金堀本流の流量に依存していない可能性があります。この湿地が主としてどの水系に依存して成立しているのかについて明らかにするため、地下水流向等の調査を実施し、エビデンスに基づいた対応策を検討する必要があると考えます。

3. 北縁道路

二十数年前に策定された事業計画では、公園北縁に境界線から公園側に幅員4mの車両が通行する舗装道路（全長約350m）を地金堀と並行して建設するとされていますが、二十数年間で周辺環境は大きく変化しており、施工前にそのあり方について慎重に検討する必要があると考えます。

4. 涵養域の確保（涵養域減少対策）

公園周辺に今後建設予定の施設や道路について、公有地では雨水浸透対策を実施し、民有地では事業者に対して雨水浸透対策を実施するように行政指導することを徹底していただきたいと考えます。

5. 東側道路

公園との境界のあり方、道路の雨水浸透対策、街路樹等について、関係者と協議して進めていただきたいと思います。

6. 南側道路

上記5に加えて、降水時の地表流を分断しない対策を講じていただきたいと思います。

(文責：山上)

こんぶくろ池等の民話を聴いて

岡本 昇

2023年11月19日(日)、こんぶくろ池前のエリアで「ほっこり昔話」の公演(主催：民話語り部の会「代表：渡辺美代子」)が開催されました。

この公演は柏市を中心に流山、松戸、船橋等各市のほか東京都内の小学校、中学校及び老人施設などで語りのボランティア活動をしている団体が開催しました。柏市による公園利用の許可も得られ、昼休みの12時から約30分。「語り部の会」の代表渡辺様が幾世代にも渡って語り伝えられてきた民話「おいてけ堀」を語られ、続いて、こんぶくろ池にまつわる民話「こんぶくろ池の主」を、そして三つ目の演目「でいだらぼっち」を各語り部の方がそれぞれ個性豊かに語られました。出し物は三点の予定でしたが「もう一つ」との声。アンコールに応じて、渡辺様が「頭に柿の木」を披露され、終了しました。



会場は語り部である演者に小春日和の柔らかいスポットライト(木漏れ日)があたり、バックにオカリナの演奏、こんぶくろ池に映る青い空、他に浮島や樹木に囲まれた森はまるで小劇場、もしくは一枚の絵そのもの。当会も屋外で民話の公演や講習会を行うことは今回が初めてとのこと。勿論、NPOがこんぶくろ池前で生の民話を聴くのも初めて。野外のため、演者は新規にハンズフリーマイクを購入し、草履に頭巾や半纏などの衣装を身に着け、媼に変身(おひよりは82歳だそうです)。出で立ちは民話の世界そのものの装い。表情豊かに、身振り手振りを交えながら語る様子に参加された方々は聞きほれ、魅了

されたようでした。また、素朴さ、優しさなどのぬくもりを感じる民話の世界に浸り、日常にはない、ほっこりした時を楽しまれたようでした。

「語り部の会」の呼びかけで今回の公演に参加された方、来園の際チラシが配られているのを見て立ち寄った方、NPOの会員の方で興味のある方が集い、50人を超えるほど参加（主催者カウント）。参加者は帰り道「面白かった」「すごい迫力だね」「こんぶくろ池のウナギを想像した」などと声を交わしながら退場され、その後に残された池の佇まいは、いつものように静寂が戻り、小鳥のさえずりとこんぶくろ池の水面を晩秋のそよ風が吹いているだけでした。



なお、開催にあたり、私たち「NPO 法人こんぶくろ池自然の森」は、敷席作り等、会場設営等に協力させていただきました。代表の渡辺様がこんぶくろ池の皆様にご挨拶しておりましたのでお伝えします。

「こんぶくろ池の皆様には大変お世話になりました。天候に恵まれるとともに、手際よく夢の舞台の会場をセットして頂き、かねてよりこんぶくろ池で民話を語ればと願っておりましたが、実現できて嬉しく思います。本当にありがとうございました」

令和五年秋季こんぶくろ池句会・歌会作品集

世話人 松田 和生

俳句の部

かなかなに呼ばれて振り向く帰り道	あおはもゆ
薄の子風に任せて親離れ	あおはもゆ
あおむけのカメムシぽつり秋の暮	あおはもゆ
秋時雨鼻水垂れる寒さかな	イチケンサンバ
さんざめく樹間をわたる風の秋	鈴之助
湧水の流るる先に手賀の秋	木下勇二
きつつきの指導よろしく打つ木槌	木下勇二
人の世の変わらぬ秋や古戦場	清美
秋日和もつれ戯むる蝶ダンス	清美
こんぶくろ自然ゆたかで楽しいな	十余二小生 白井櫻子
爛酒を欲しくなる秋やとくる	昇笑
赤勝てと白勝てが満つ運動会	中川望

碧き毬秋風吹きて口甘し	新山洋子
熱爛に揚げ銀杏で和む夜	秀夫
妻と行く日暮れの道や落葉踏む	米山要
雲流れ初冠雪の嶺光る	米山要
仰ぎ見る常念岳の初冠雪	米山要
朝霧に濡れて桔梗の物思い	わらしべ

短歌の部

秋の野に大輪開く彼岸花	
その一瞬にすべてをかけて	中川望
澄みわたる青空の下歩みゆく	
希望の道を止まることなく	中川望
公園で荻野目洋子に尋ねられ	
胸キュンされどわれ翁の身	ノー・ボール
汗拭きて一息つけば色づきし	
楓の葉先を風渡り行く	Q太郎
脱サラで夢を叶えたバリスタの	
上司を訪ねた鎌倉の秋	秀夫
遅播きの猫のお墓に大輪の	
朝顔咲きぬ泣いてくれろと	吉川億空
暗闇に座して思惟する観音の	
笑みは宇宙の謎に触れんや	吉川億空
来園者と多様な生物の狭間で	
揺れる安全と蜂の住処と	わらしべ

あとがき

猛暑から解放されてホッとしたのも束の間、いきなり低温が襲いかかり対応に追われた秋でしたが、それでも意欲十分の皆さんでした。

今回は新たに一名の方が加わり、延べ十五名の方から俳句十八句、短歌八首が寄せられました。若人の新鮮な目、ベテランのより深みを感じさせるオリジナリティ、リアリティあふれる作品が光ります。

次回は令和六年冬季（令和五年十二月～令和六年二月）になりますが、思い立ったが吉日、こんぶくろ池自然博物公園管理事務所前の投稿箱の他、世話人あてのメールでも結構ですので投稿をお待ちしています。

11月理事会

(日時) 2023年11月25日(日) 13:00～15:40
(場所) 管理棟
(出席者) 議長(理事長): 萩原
出席者(理事) 徳永・中川・上田(書記)
(顧問) 岡本・(監事) 松田

1. 審議検討・確認事項

(1) 北側水路等現地視察

- ・ 26日 13:00 過ぎに千葉大小林先生及び木下先生が北側水路等現地視察のためご来園予定。
 - ・ ご案内内容やタイムスケジュール等の確認を行った。
- (2) 下半期の検討課題
- ・ 年会費入金状況確認結果の報告。
 - ・ 「会費に関する内規」案を検討し、本案を第15回通常総会に諮ることとした。
 - ・ 来年度の体制づくり（執行部・各担当他）及び計画（特にイベント）について検討した。
 - ・ 来年度イベントの候補及び確認すべき点などを検討し、次回以降の理事会でイベント開催時期、内容、数などについて審議することとした。
- (3) (11/26 (日) T-SITE) 「こんぶくろ池自然博物公園の樹名板づくり」の直前状況確認
- ・ イベントで使用する樹銘板は、園内伐採木を利用しており、会員によって充分量を作成済み。
 - ・ イベント当日のスタッフは6名を予定。
- (4) (10/22 (日), 11/4 (土), 11/19 (日)) 「里山の保全活動体験会」の実施結果報告
- ・ 11/16時点で12名の申込みあり。
 - ・ 2020年11月より、会期を約1か月間に設定し、3月、11月の年2回定期的に保全活動体験会を実施している。この形での開催を開始して以降の実施結果から以下2点の傾向が見られた。
 - ① 体験会を知ったきっかけとして当NPOのHPを挙げる人が特に今回増加した（12名中5名）。
 - ② 若年層の申込者が、特に今回は大幅に増加した（12名中20代以下3名、30代2名、40代3名）。
 - ・ 今回の参加者アンケート（11/25現在）では「活動に参加したいが今はゆとりがない」2名、「さらに活動を体験してみたい」4名、「入会希望」1名、「保全活動に参加を希望しない」0名。
- (5) 流山市団体（水と緑の探偵団）の当NPOの活動見学対応
- ・ 7/16に当団体の責任者が当NPOの定例活動の見学&体験（調査活動）を実施済。
 - ・ 表記団体に申し込んだ里山活動体験希望者が、12/17（日）の当NPO定例活動日を体験する予定。ただし、参加者多数の場合は活動体験を行わず見学のみを予定。
 - ・ 駐車スペースの問題があるので、先方にはできるだけ公共交通機関を利用するようお願いする。
- (6) 柏の葉スマートシティの「Facebook 記事インタビュー」
- ・ 萩原理事長が、11/6（月）に三井不動産を訪問し懇談した。その際、表題についての申し入れがあり、近日中に理事長がインタビューを受ける予定。
 - ・ 懇談の際に、柏市が発行し当園が掲載されている「緑化ガイドライン（柏北部中央地区・北部エリア）」の存在を教えてくださいました。今後予定されているアドバイザー会議などで、検討の材料としたい。

(7) 12～1月活動計画

- ・ 落葉広葉樹の育成を視野に入れた林床整備、草地維持、湿性環境の整備など、長期計画を確認しながら 12,1 月の活動計画を検討した。
- ・ 具体的には、今年開花数が少なかったワタラセツリフネソウエリアの整備、湿性環境の整備、ノジトラノオエリア向いの林床の整備など。

(8) 12月の通信記事

- ・ 掲載記事について協議した。

2. 報告事項

(1) 園内ガイド

- ① 柏市観光協会主催「市内見学バスツアー」(各 21 名) (① 10/26、②11/9 9:55～10:40) 10/26 (平岩、中川)、11/9 (中川恵美、中川望)
- ② FF さわやかクラブ (30 名) (10/30 10:30～11:30)
- ③ 柏歴史クラブ (戦跡ツアー) (34 名) (11/3 14:30～15:20) (岡本)
- ④ 旧吉田家住宅歴史公園 (10 名) (11/17 9:20～10:30) (岡本) ⇒ 悪天候のため中止

(2) その他

- ① 柏の葉公園ウォーキングフェスタ協力 (10/22 10:00～15:00)
園内の一部にコース設定、トイレ開放のみ
- ② フジテレビ「千葉の贈り物～まごころ配達人～」放映 (11/12 8:55～9:00)
- ③ カシニワミーティング (11/21 13:30～16:00 中央体育館) (徳永)

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

新入会員紹介

米村 修さん



参加動機：キノコ観察会や体験会を通して、メンバーの動植物に対する知識に感心した。同じ趣味や志を持った人達と、自宅近所でもあるこんぶくろの自然を守っていききたい。

貢献できそうなこと：公園整備、調査 (動植物、鳥など)、情報処理・パソコン

取り組んでみたいこと・分野：昆虫、微生物、菌類と植物の関連性の調査、昆虫の生育環境の整備

ひとこと：この活動は、子供の頃にやりたかったことの実現となる！